

第 8 回 再生普及行動計画ワーキンググループ

日時：平成 17 年 10 月 31 日（月） 18:30～20:30

場所：釧路地方合同庁舎 4 階 第三会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 再生普及行動計画 2005 年度具体的取組みの中間報告
 - 2) 2006 年度の募集について
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

- ・ 当議事次第
- ・ ワーキンググループ名簿
- ・ 第 8 回出席者名簿
- ・ 資料 1-1 2005 年度具体的取組み 進捗状況
- ・ 資料 1-2 2005 年度取組み報告（7 件）
- ・ 資料 2-1 2006 年度具体的取組み募集概要（案）
- ・ 資料 2-2 応募用紙（2006 年度版）（案）
- ・ 参考資料 昨年の応募用紙 ・ 配布チラシ

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

<個人>

江崎 秀雄 (森の学習塾代表)
金子 正美 (酪農学園大学環境システム学部助教授)
清水 信彦
新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)
滝川 喜三
永瀬 知志

<団体>

NPO 法人釧路湿原やちの会
釧路湿原ボランティアレンジャーの会
釧路市民活動センターわっと
釧路シャケの会
釧路武佐の森の会
ボランティアネットワーク・チャレンジ隊

<関係市町村>

釧路市 釧路町 標茶町 鶴居村 弟子屈町

<関係行政機関>

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
北海道教育庁釧路教育局

<ワーキンググループ事務局>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
財団法人北海道環境財団

第8回再生普及行動計画ワーキンググループ 出席者名簿

<委員> (出席者 50 音順)

氏名	所属
大西 英一	釧路武佐の森の会
金子 正美	酪農学園大学 助教授
近藤 一燈美	釧路湿原ボランティアレンジャーの会
酒田 浩之	ボランティアネットワーク チャレンジ隊
佐竹 直子	ボランティアネットワーク チャレンジ隊
佐藤 真紀	釧路市民活動センターわっと
佐藤 吉人	NPO 法人釧路湿原やちの会
清水 信彦	(個人)
新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主幹
滝川 喜三	(個人)
永瀬 知志	(個人)
成ヶ澤 茂	釧路シャケの会

<再生普及小委員会 委員>

氏名	所属
佐々木 誠治	こどもエコクラブくしろ
高橋 忠一	北海道教育大学釧路校 助教授

<関係市町村>

氏名	所属
館田 康	弟子屈町 環境対策課
高松 一哉	鶴居村 産業課
中野 正人	釧路町 産業経済課
福田 芳弘	釧路市 環境政策課

<関係行政機関>

機関名	出席者氏名
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課長	大串 弘哉
林野庁北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 所長	藤村 武
北海道教育庁釧路教育局	島倉 修一
北海道釧路支庁地域政策部環境生活課自然環境係係長	後藤 達彦

<ワーキンググループ事務局>

機関名	出席者氏名
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所所長 次長 国立公園・保全整備課 釧路湿原自然保護官	星野 一昭 吉中 厚裕 樋口 悟一 山本 豊
財団法人北海道環境財団 企画事業課課長	久保田 学 内田 しのぶ

釧路湿原自然再生普及行動計画
2005年度具体的取組み進捗状況（概要）

- ◆ 前回の普及小委員会から追加した取組み 6件(3団体)
→ 2005年度の具体的取組みは、全部で75件(34団体・個人)となりました。

- ◆ 進捗状況(10月31日現在)


取組み	終了	◎	22	件
〃	継続中	○	41	件
〃	予定あり	□	9	件
〃	未定	■	3	件

- ◆ 行動計画(本文)の中の取組みで、▲印(実現に向けて課題を解決していくべき取組み)がとれたものではありません。

- ◆ 一覧表の中の太字で表記してあるもの(No4,12,14,22,34,42,48)は、取組み報告を作成したものです(資料1-2)。

- ◆ 本年度中に残りの取組み報告を作成し、報告書としてまとめる予定です。
また、取組み実施の様子を、ホームページにて公開いたします(既に一部公開しております)

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	温根内ビジターセンター駐車場の清掃活動を、シーズン中毎日行います	
主催者	特定非営利法人 釧路湿原やちの会 2000年3月にNPO法人格を取得。修学旅行や企業の研修旅行等の受入れ、一般市民対象のツアー実施を通して、釧路湿原をフィールドに環境教育的な視点から様々な体験プログラムを実施している。	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティのひとつとして、多くの人々が訪れる場所の環境美化を行う ・湿原周辺で地域向けに、啓発活動を行う 	
実施の様子	実施期間	平成17年5月～10月
	<p>釧路湿原やちの会では、シーズン中毎日JALライナーのオプションツアーを受入れ、温根内木道を案内しており、そこで、毎日ツアー客を案内する前に駐車場のゴミを拾い、環境美化に努めている。</p> <p>なお、集めたゴミは釧路土木現業所の協力により、道路管理パトロールカーが回収・処分を行っている。一日に出るゴミの量は買い物袋で約半分。また、不法投棄を発見した場合にはすぐに通報するという体制をとっている。</p>	
		
	写真：集めたゴミは、道のロードコーンに置くと決め、道路管理パトロールカーがゴミ回収に協力している	
主催者の感想	<p>継続することで、今年度はゴミが少ないように見受けられる。ゴミは在るところに集まると言われているが、今年は花火の跡や生ゴミなども見られず、カラスにあらされることもなくきれいである。</p> <p>集めたゴミを置く場所としている道のロードコーンが捨てられるなどのいたずらもあったが、大きな問題もなく行われた。</p>	
成果(評価)	評価手法	実施内容:実施の様子参照
	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路土木現業所の協力を得るなど、他組織と協力した取組みである。 ・この取組みに関して観光客の感想を聞いたことは無いが、ゴミが無いということはホスピタリティのひとつとして重要なことである。 ・他施設からこの取組みに関して高い関心を持ってもらった。 	

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	「釧路湿原“音”探検」を実施します。	
主催者	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊 (釧路市生涯学習センター(講師 斉藤潔氏、伊藤達哉氏))	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・元の自然に、いつもと違ったアプローチで接する機会を作る。 ・多様なプログラムで、多くの市民の参加を促す 	
実施の様子	日時・会場	7月3日(日) 9:00～16:00 達古武湖周辺
	参加者数	26名
	<ul style="list-style-type: none"> ・WG事務局が釧路市生涯学習センターにこの取組みを紹介したところ、センターの講座のひとつとして開催することとなった。チャレンジ隊は共催として、当日の進行などを担当した。 ・定員30名に対して申込み28名。2名がキャンセルしたため、参加者26名で実施。 ・参加費 600円(まなぼっとの規定による) ・スタッフとして、まなぼっと職員1名、チャレンジ隊3名が参加。 ・まなぼっと北口集合としたが、時間までに参加者全員が集まったため、予定より早く出発した。バスの中で講師から湿原の野鳥について簡単に話していただいた。 ・達古武オートキャンプ場到着後、全体を2班に分け、1班はキャンプ場付近、2班は対岸の細岡周辺(バスで移動)で音を聞くこととした。 ・全員に集音機を配布し、遊歩道沿いに歩きながら野鳥の声などを聞いた。歩くと自分の足音まで拾ってしまうため、立ち止まって音を聞くのだが、熱心に聴いているため参加者が散らばってしまっていたが、講師と主催者・共催者でうまくフォローできた。予想以上に多くの野鳥の声を聞くことができたのに加えて、セミの声や木の枝が風にそよぐ音など、様々な音を聞くことが出来た。ただし、細岡周辺の遊歩道は、車が通ると車の音で何も聞こえなくなってしまった。音を聞く場所をうまく選ばなければ集中して聴くのは難しい。 ・昼食後は各自が聞いた音を発表した。鳥の鳴き声については、講師が鳴きまねを交えつつ鳥の名前を挙げて、生態について解説してくださった。参加者も鳴き声をまねしながら発表するなど、楽しみながらの発表となった(この日声が聞かれた鳥はエゾセンニュウ、ウグイス、シジュウカラなど) ・予定時間より早く終了したため、参加者の希望で細岡の展望台に寄って、講師から釧路湿原の解説を受けた。 ・その後まなぼっとに戻り、解散となった。 <p>参加者の感想：</p> <p style="padding-left: 2em;">広報くしろを見て友人と一緒に参加しました。普段はこんなに落ち着いて鳥の声を聞くことはない。最初はいろいろな音が混じっていてわからなかったけど、だんだんわかるようになった。まなぼっとの講座だとバスで連れてきてくれるのでありがたい(60代女性)</p>	



講師の解説



集音機の使い方を説明



集音機



集音機を持って散歩する



聞き取った音をメモする



聞き取った音を発表する(1)



聞き取った音を発表する(2)



音を拾いながら歩く参加者



細岡展望台で講師から釧路湿原の話聞く

主催者の感想

まなぼつと職員: 予想以上にいろんな音が聞けて、楽しみながら歩くことができた。目で見る
こと(観察会)はあるけど「音」に絞った企画というのは面白いと思った。季節を変えても出来
そうな企画である。もっと子どもの参加者が多くてもいいかもしれない。

チャレンジ隊: 今回で3回目の「音」探検となった。じっくり丁寧に聞いてくれたのは、関心
を持ってくれたということだと思う。車道が近くて車の音がとても気になったが、ひょっとしたら
動物たちはもっと気になっているのかもしれない、など感じてくれたらと思う。参加者層が広
く、よかった。

成果(評価)

評価手法 | 参加者数: 26名 実施内容: 実施の様子参照

- ・ 参加者層が子どもから大人・ご年配の方まで広く、いろいろな人が楽しめる企画であった
- ・ 車の音が聞こえない場所の選定が難しい(これまでは達古武の夢ヶ丘展望台への木道で行っていたが、このときはまだ整備中のため利用できなかった)
- ・ これまでチャレンジ隊が独自で行っていた企画だが、まなぼつとと共催することで参加者の募集、宣伝、講師謝礼など負担を軽減して実施できたのではないと思う。また、クリップボードの貸出など、道具の面でも新たに実現できることがあった。

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	「ジュニアフォトグラファーズ in 釧路湿原」を実施します	
主催者	キャノン株式会社 コーポレートコミュニケーションセンター 国内外を問わず、社会・文化支援活動を行っています。ジュニアフォトグラファーズは 2004 年からはじまりました。	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの環境に対する意識を高めるとともに、写真を通して子ども達に発見や感動を人々に伝える体験の場を提供する。 釧路湿原周辺施設にて文化事業を実施することで、様々な分野の人に湿原に訪れてもらい、湿原について知るきっかけをつくる。 	
実施の様子	日時・会場	7月23日(土) 13:00～ 温根内ビジターセンター 7月24日(日) 13:00～ 塘路エコミュージアムセンター
	参加者数	23日 子ども14名(大人6名) 24日 子ども10名(大人7名)
<ul style="list-style-type: none"> 募集は7月1日以降に始まり、環境省東北海道地区自然保護事務所の協力の下、まなぼつとや釧路市子どもレンジャーなど、環境に関心のある子ども対象イベントを行っている団体を中心に宣伝を行った。 スタッフは、キャノン3名、釧路湿原国立公園ボランティアの会4名 当日の作品は、11月に東京・大阪で「ジュニアフォトグラファーズ写真展」として展示される予定。 <p>7月23日 温根内ビジターセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶 講師紹介 横山宏 氏(写真家 弟子屈町在住) 釧路自然保護官レクチャー(環境省 山本自然保護官): 国立公園について、釧路湿原について、自然再生事業についての解説をPCを使って10分ほど解説 横山先生レクチャー: 写真を撮る時のコツとして、視線を変えること、興味の沸いたものは何でもとってみることなどを説明 デジタルカメラ操作説明: キャノンスタッフが前で解説。他のスタッフが参加者の様子を見て指導を行う。 フィールド撮影: 温根内木道にて撮影。横山先生は子どもたちの様子を見ながら撮影のアドバイスを行う。このときに釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーがサポートとして随時植物や昆虫の解説をしたり、活動範囲内の周回を行った。 レクチャールームにて、お気に入りの一枚を選択・カメラ提出 作品レビュー(横山先生より講評) フォトフレームとともにプリントプレゼント 記念撮影 <p>7月24日 塘路湖エコミュージアムセンター「あるこっと」 (前日と同様の内容で進行)</p> <ul style="list-style-type: none"> 釧路自然保護官レクチャー(環境省 田村自然保護官) フィールド撮影: フィトンチッドの森を歩きながらの撮影。撮影を始めてから雨が降り始めたが、森の中は比較的雨粒が落ちてこず、撮影にそれほど支障はなかった。森を出てからセンターに戻る間に濡れた参加者が多かった。 		

参加者の感想：

友達と一緒に参加した。デジカメは理科の時間に使ったことはある。(上手に撮れましたか?の質問に)自信はないです。(中2)

エコクラブで連絡がまわってきて参加しました。普段はあまり湿原にはこない。デジカメはさわったことはあるぐらい。これからはもっとさわらせてもらおうと思う。(小5)

普通に歩いて写真を撮っている時よりも「何かを見つけてやろう」と集中できた。とても新鮮でした(大人)

大人だけでこの企画をやるよりも、子どもと一緒にやることで気持ちが自由になる感じがしました。いい企画だと思いました(大人)

参考：キャノン社会・文化支援活動ホームページ <http://canon.jp/scsa>



デジカメ操作の説明 (1)



デジカメ操作の説明(2)



木道での撮影



プリントアウトした作品はフォトフレームに入れてもらえる



記念撮影(塘路湖EMC)

主催者の感想	私たちスタッフも、子ども達の発見を共有できたり、同じように触れたり感じたり、いつもとは違う視点で見ることができます。子どもたちにも地域性を感じます。釧路の子ども達は自然に親しんでいて、虫などにも抵抗なく接していると思います。この企画は、普段は自然とあまり触れ合っていない都会の子どもだけのものではありません。既にいろいろ体験している釧路の子ども達ならではの発見、対象物の見つけ方を探してくれればと思います。
成果(評価)	評価手法 参加者数:37名 実施内容:実施の様子参照 ・デジカメの被写体を探す、ということで普段とは違う新たな視点で自然や湿原を見ることができる。 ・参加定員は30名だったが、両日とも定員に満たなかった。

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	「湿原ほたる講座」において、親子でほたるについて学習し、温根内にてほたる観察を行います	
主催者	釧路市生涯学習センター（講師 杉山伸一氏）	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の自然に触れ、新たな発見をするきっかけ作りをする ・子ども、親子で参加する機会をつくる 	
実施の様子	日時・会場	7月15日 18:00～21:00 釧路市生涯学習センター(ハイビジョンシアター) 温根内木道
	参加者数	21名(うち、子ども4人)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員 30 名に対して申込み 24 名。3 名が欠席し参加者 21 名で実施された。 ・ 参加者には、5F ハイビジョンシアターに集合していただき、そこで講師からほたるの生態についてお話いただいた(ほたるの種類について、どんなところに居るのか、何を食べているのか、発光する仕組み等)。写真や標本を交えながら、簡単で分かりやすい説明をしていただいた。30 分ほどで説明を終えて、バスで温根内へ移動した。 ・ 移動中のバスの中で「電照ほたる」の使い方の説明と現地での注意気候を参加者に伝えた。途中トイレ休憩のため湿原展望台へ寄ってから現地へ向かった。温根内では木道を歩いてほたるを見られるポイントへ向かったが、途中でほたるを見つけることができた。ほたるの見られるポイント周辺では、ほたるの飛び交う様子も見る事ができた。今年は低温が続いていたため見られないのではないかと心配していたが、予想以上のほたるの数に、参加者も時間を忘れ夢中で見入っていた。 ・ 帰りのバスの中では、講師が「釧路湿原」の歌唱指導を行い、みんなで歌いながら楽しく戻ってきた。数名が途中下車し、予定を 15 分ほど過ぎて到着し、解散した。 <p>参加者の感想：</p> <p>湿原にほたるがいるとは知らなかった。</p> <p>昔を思い出し、懐かしかった</p> <p>今度は家族を連れて来たい</p> <p>来年も参加したい</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ハイビジョンシアターでの講義</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講義で使った模型や標本など</p> </div> </div>	



講師手作りの電照ほたる。これでほたるを呼ぶ



温根内



ほたるが手にとまった



飛び交うほたるを見る参加者たち



<p>主催者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この講座は、ほたるが見られるかどうかにか成否がかかっている。気象条件に大きく左右されるため実施日時の設定が難しいが、温根内ビジターセンター等から情報を事前に集めて対応は可能である。 ・ 講座の制性質上開催が夜間になることもあって、子どもの参加者が少ない。身近な自然にふれる絶好の機会なので、親子での参加が増えるよう、来年度は学校にチラシを配布するなど広報を工夫したい。 		
<p>成果(評価)</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">評価手法</td> <td>参加者数:21名 実施内容:実施の様子参照</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の講義の中では、特に湿原に関する話題に触れられなかった。 ・ 子どもの参加者が少ないという主催者の感想を受けて、普及行動計画として今後何かしらの協力体制ができればと考える。 	評価手法	参加者数:21名 実施内容:実施の様子参照
評価手法	参加者数:21名 実施内容:実施の様子参照		

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	釧路湿原周辺施設にて、楽器演奏(フルート)の協力をします	
協力者	高木 佐和子 釧路市内でフルート教室を開校。 URL : http://homepage2.nifty.com/sawako-flute-school/	
取組みのねらい	・釧路湿原周辺施設にて文化事業を実施することで、様々な分野の人に湿原に訪れてもらい、湿原について知るきっかけをつくる	
実施の様子	日時・会場	8月6日(土) 13:00～ 15:00～ 弟子屈町 川湯エコミュージアムセンター
	参加者数	23名
	<ul style="list-style-type: none"> ・8月5日(金)～8月15日(月)に、川湯エコミュージアムセンター(川湯EMC)にて釧路湿原自然再生事業パネル展を開催した。その際のお楽しみ企画として、フルートとハーブのミニコンサートを企画した。 ・広報はチラシを作成し、弟子屈町内を中心に川湯EMC職員に配布をお願いした。 ・当日の天候は晴れ。天気が良すぎると逆に施設来訪者が少ないこともあると職員から聞き、開演前に再度チラシを持って足湯にいる観光客や道行く観光客に声をかけた。 ・曲目はパッヘルベルのカノン、夏の思い出、いつも何度でも、ムーンリバーなど、だれでも一度聞いたことがある気軽な曲が用意された。 ・コンサートの時間は約20分。その途中に釧路湿原の紹介と自然再生事業の紹介を行った(WG事務局内田が担当)。 	
		
	ハーブは佐野理恵子さんの演奏です	楽器紹介では小さなハーブも登場しました
		
	子どもも楽しめる曲が演奏されました	紙芝居で釧路湿原と自然再生事業を紹介しました

協力者の感想	<p>木がたくさん使われたとても素敵な建物で、響きもよかったので、これからもコンサートがたくさん行われるといいなあ...と思います。</p> <p>釧路湿原自然再生事業パネル展にあわせたコンサートだったため、釧路湿原に関するとても興味深いお話をお聞きすることができて、私もとても楽しかったです！ご来場いただいた方々、どうもありがとうございました！</p> <p style="text-align: right;">（ホームページより）</p>	
成果(評価)	評価手法	実施回数:1回
<ul style="list-style-type: none"> ・観客の多くは観光客であり、地元の人はずかであった。 ・観客が少なく、もっとPRが必要であった。 ・同日環境省主催で全国統一の国立公園クリーンデーが行われており、イベントが重なってしまい残念だった。 		

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	自然保護を目的とする学生組織「F・A ネットワーク」と協力してワークキャンプを実施します	
主催者	財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ 全国 12 ヶ所にあるサンクチュアリのひとつとして、ここではタンチョウ保護活動(繁殖地の保全・管理、タンチョウの調査、給餌、施設来訪者への解説など)を行っている。	
取組みのねらい	・いろいろな人に対する自然再生参加の機会を増やす取組みのひとつとしてワークキャンプの実施・受入れを行います	
実施の様子	日時・会場	8月24日(水)～31日(水) 鶴居村 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
	参加者数	9人(男性3名 女性6名)
<p>・ F Aネットワークでは、毎年大学生の春休みと夏休みを利用して、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ、キナシベツ湿原、霧多布湿原、ウトナイ湖サンクチュアリでワークキャンプを行っている。</p> <p>・参加者は、9名中5名が鶴居もワークキャンプも初めてであった。学校は皆バラバラで、関東6名、関西2名、北海道1名であった。</p> <p>・参加者の中には、今回でキナシベツ、霧多布、鶴居、ウトナイの4箇所を制覇した人もいた。</p> <p>・今回のサンクチュアリでの滞在は1週間で、スタッフ指導の下いろいろな作業を行う。</p> <p>・今回の作業は看板づくり、保護区のハンノキ萌芽調査、保護区の標識設置(根室)が行われた。</p> <p>・作業の傍ら、スタッフからタンチョウの話や現地の自然に関する話も聞くことができ参加者は学びながら作業することが出来る。</p> <p>・今回の滞在費用は2万2千円。宿泊は鶴居合宿研修所を利用した。</p> <p>・参考: F Aネットワーク http://www005.upp.so-net.ne.jp/fan/</p> <p>参加者の感想</p> <p>本物の湿原を見たのは初めてで、良い体験ができた。</p> <p>タンチョウ保護の現状と、湿地について学ぶことができた。</p> <p>(キャンプに参加することの楽しみは何ですか?の質問に)共同作業することで仲間が出来ること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="456 1675 842 1962" style="text-align: center;">  <p>看板 づくり</p> </div> <div data-bbox="908 1684 1321 1966" style="text-align: center;">  <p>看板 完成</p> </div> </div>		



看板 づくり



標識設置



ハンノキ萌芽調査(1)



ハンノキ萌芽調査(2)



地域の人との交流会(1)



地域の人との交流会(2)

主催者の感想

- ・以前からFAネットワークの学生を受入れていることもあり、サンクチュアリでの作業や様子は代々先輩達からメンバー達に伝わっているので、事前に学習してもらうことは特にありません。
- ・ワークキャンプを受入れることのメリットは、少人数では出来ない作業を学生たちの協力により行えること、長期滞在で通常の観光客よりも現地のことをより深く知ってもらえること、学生たちが他の場所でサンクチュアリの活動を広めてくれることです。
- ・逆に大変なこと(デメリット)は、ボランティア活動の事前準備、当日活動の調整などコーディネートに多くの時間をとられる、ということです。
- ・学生たちは単なる労働力として来るのではなく、個々に目標を持ってきている。学生の希望を受入れてあげることも大事であり、そのために事前に学生の希望を十分聞くことが必要だと考えている。万が一に備えて病院や保険に関する事前の準備も入念にしておくことも大事です。
- ・ワークキャンプ終了後も学生たちがワークキャンプを通してどんなことを学ぶことができたのか、学生たちにどんなことを伝えることができたのかを振り返ることも必要である。

成果(評価)

評価手法

参加者数:9名 実施内容:実施の様子参照

- ・地元以外の学生が長期滞在することで、タンチョウや釧路湿原に関する自然のことを深く知ってもらえる重要な機会となっている。
- ・観光だけではない滞在のスタイルとなっている。

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	釧路湿原周辺施設にて、演奏（釧路湿原をイメージしたオリジナル曲）の協力をします。	
協力者	北島 万鈴（きたじま まりん） 白糠町出身 バラードシンガー	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路湿原をイメージして作曲された曲を歌っており、それを多くの人に聞いてもらうことで釧路湿原に関心を持ってもらう。 ・ 釧路湿原周辺施設にて文化事業を実施することで、様々な分野の人に湿原に訪れてもらい、湿原について知るきっかけをつくる。 	
取組みの様子	日時・会場	2005 年 7 月 17 日・31 日 14:00～ 細岡ビクターズラウンジ
	参加者数	17 日：約 40 名 31 日：約 50 名
	<p>第 16 回釧路湿原コンサート出演</p> <p>7 月 17 日（日） 14:00～15:20 細岡ビクターズラウンジ前庭にて開催 釧路湿原コンサートとして初めて野外で行われた。座って聞く人、観光で訪れた人もしばし足を止めて聞いてきた。</p> <p>コンサートでは全 8 曲を歌い、その中でクイズやトークも行われた。</p> <p>クイズでは湿原に住む魚「イトウ」のこと、湿原が消えたら地球の温暖化が進む、釧路湿原は何市町村にまたがっているのか、といった釧路湿原に関する問題が出された。クイズの景品は、野外らしく「他のお客様は、一時目をつぶってください。正解者の方は、今、この時、この広い青空を独り占めです」や「他のお客様は一時息を止めてください。正解者の方は、今、このとき、このおいしい空気を独り占めです」というユニークなものであった。正解者も「おいしい空気でした」などにこやかに答えていた。また、今回の湿原コンサートを釧路湿原自然再生協議会が後援していることもあり、WG 事務局の内田を交えて、だれでもすぐ参加できる自然再生について話をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路湿原についていろいろ知ってください。 ・ 湿原に暮らす生き物達の生活を知ってください。 ・ 自然再生協議会発行の「釧路湿原ガイドマップ&ブック」を購入してください ・ 「釧路湿原自然再生普及行動計画」のパンフレットを読んでください ・ 釧路湿原自然再生協議会に、ご理解とご協力をお願いします <p>などを観客達に伝えた。</p> <p>観客の感想：</p> <p>ただ歌うだけではなく釧路湿原に関する話題が入っていて、単なるコンサートではなくてよかった。</p> <p>釧路湿原でいろいろな活動が行われていることがわかってよかった。</p> <p>クイズに景品があってもよかったかもしれない。</p> <p>今日は特別暑い日で、野外で 1 時間のコンサートはちょっときつかった。</p>	

7月31日(日) 14:00~14:50 雨のためラウンジにて開催

この日はラウンジの都合により 50 分のコンサートとなった。
 17日と同様、全 8 曲を歌いクイズとトークが行われた。
 クイズは前回と同じではなく、少し問題を変えて出題された。また、正解者への景品について、今回は釧路町観光協会からポストカードのセットを、細岡ビクターズラウンジからピンバッジの提供を受け、正解者に手渡された。
 また、WG 事務局の内田も交えて前回同様の自然再生への協力をお願いした。この日は、国道からラウンジに通じる道路でキタキツネが轢かれて車道に倒れていたこともあり、野生生物に人間の食べ物を与えることの弊害を伝えた。

観客の感想：

チラシを見て本日来た。ステキなコンサートだった。細岡展望台は来たことがあってもラウンジがあるとは知らず、今回初めてこの建物に入った。造りがとてもステキで、音の響きもやわらかく、暖かい雰囲気の良いと感じた。「釧路湿原コンサート」が行われていることはこれまで知らなかった。興味のあるジャンルのコンサートならこれからは出かけようと思った。



ラウンジ 前庭で歌う北島さん ラウンジ 2F にも観客が多かった

トークも交えて進行された



ラウンジ 内のコンサートの様子(1)



ラウンジ 内のコンサートの様子(2)

協力者の感想 釧路湿原をイメージした曲には思いいれもあり、ここ（釧路湿原）で歌うことができ大変よかった。多くの観客と近くに接することができて、応援してもらえてよかったです。

成果(評価)

評価手法	実施回数:2回
<ul style="list-style-type: none"> 初めてビクターズラウンジを訪れた人もおり、コンサートを開催することでより多くの人に湿原のことを知ってもらう機会をつくることできた。 コンサートの合間に自然再生の話しをすることで、意外性をもって自然再生の話を伝えることができた。 	

釧路湿原自然再生普及行動計画
2006年度具体的取組み予定
募集概要(案)

募集期間

2006年2月20日(月)～3月20日(月) (1ヶ月)

広報について

チラシ作成(1500枚)

各市町村の公共施設(コミュニティセンター、図書館、観光施設等)←市町村役場に協力をあおぐ

FMくしろにて広報

「じゅう箱のシミ」に掲載

新聞掲載依頼(2社)

北海道環境財団の情報ML掲載

ホームページ掲載(WG通信、協議会HP)

校長会にてPRを行う ……今回新たに追加予定

各市町村発行の広報誌に掲載 ……今回新たに追加予定

応募方法

WG事務局に電話かメールで応募用紙送付を依頼

→ 記入後、WG事務局に送付(メール、ファックス、郵送のいずれか)

→ WG事務局で内容について応募者に確認(電話、ファックス、メール等で)

→ 〆切後、WG・小委員会にて承認後、応募者に「2006年度～」として公開されることを通知

→ 公開

連絡先

釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

TEL 56-4646 FAX 56-2267

〒084-0922 釧路市北斗2-2101 釧路湿原野生生物保護センター内

e-mail fukyu@kushiro-wetland.jp

その他

募集の方針:「釧路湿原自然再生」の普及に貢献する活動であれば、地域を問わず受入れる

チラシの改正点

「ご応募いただいた取組みは、ワーキンググループ・再生普及小委員会で承認後に公開されます」と添える

釧路湿原再生普及行動計画 2006年度具体的取組み予定
主催者・協力者 応募用紙 (記入方法)

氏名・団体名 (代表者名)		個人の方は、所属(学校や会社など)もお書きください	
取 組 み	内容	実施、または予定している取組みの内容をお書きください。	
	時期・回数	取組みの開催予定時期や回数など、わかる範囲で結構ですでお書きください	
	ねらい	ご応募くださる取組みが、行動計画のどの部分に該当するか、お書きください。 または、「ホスピタリティのひとつとして」や「自然体験の機会を設ける」など独自のねらいがありましたらお書きください。	
連 絡 先	担当者名		
	住所		
	電話番号		
	E-mail		

WGや協議会に依頼したいこと(例:講師派遣・紹介、パネル展示、他団体の紹介など)

他団体との共催で開催したい、△△なことをしてくれる団体はないか?など
ご相談等がありましたらお書きください。

今回応募することでどんな事を期待していますか

例:広報・周知、活動のPR、行動を起こすきっかけとなった、など

その他

- みなさんの団体(組織)について教えてください(記入できる部分だけで結構です)。

団体の設立目的	
活動頻度	
活動人数(会員数)	
その他PRなど	団体の特徴やPRしたいことなどがありましたら是非お書きください。 団体をご紹介する際に活用させていただきます。

再生普及行動計画WG事務局 FAX: 0154-56-2267

ファックス、郵送、または添付ファイルにてお送りください

釧路湿原再生普及行動計画 2005 年度具体的取組み予定

主催者・協力者 応募用紙 (記入方法)

氏名・ 団体名	(代表者名) 個人の方は、所属(学校や会社など)もお書きください	
取組み内容	内容 実施、または予定している取組みの内容をお書きください。	
	取組み時期・回数 取組みの開催予定時期や回数など、わかる範囲で結構ですのでお書きください	
連絡先	担当者名	
	住 所	
	TEL&FAX	
	メールアドレス	
行動計画WG や自然再生協 議会に依頼し たい事柄はあ りますか？	(例:講師派遣・紹介、パネル展示、他団体の紹介など) 他団体との共催で開催したい、△△なことをしてくれる団体はないか?など ご相談等がありましたらお書きください。	
その他	(団体の紹介や、特筆すべきことがありましたらお書きください) 今後の展開や、やってみたいことなどありましたらお書きください	

再生普及行動計画WG事務局 FAX:0154-32-7575
ファックス、郵送、または添付ファイルにてお送りください

釧路湿原の自然再生に参加しませんか?

2005年度釧路湿原自然再生普及行動計画

主催者・協力者 募集中

こんなこと
してくれる
人や団体
募集
しています

- 湿原の歴史を伝える活動
- 湿原を解説する活動
- 自然再生に企画・協力する活動
- 自然ガイド・観察会
- 地域・市民のネットワークを築く活動
- 公民館活動
- 情報発信 などなどお近くのカタチは問いません

釧路湿原保全につながる
皆さまの取組みのPR
活動紹介・ネットワークづくり等
お手伝いを致します!!

応募条件

「釧路湿原自然再生普及行動計画(案)」の取組みに該当する活動を
行っている、又は2005年度中に計画する取組みのある団体・個人
※団体・企業・行政など

申し込み締切 4月22日(金)

【応募方法は電話・FAX・メール ※詳しくは募集要項をご覧ください】

ご注意

- 釧路湿原自然再生普及行動計画(案)をご希望下さい。
※お申し込みの際は「募集要項」を必ずお読みください。
● 活動紹介・PR活動のPR活動は、
● 自然再生推進センター(釧路市)にて
● 自然再生推進センター(釧路市)にて
● 自然再生推進センター(釧路市)にて
● 自然再生推進センター(釧路市)にて
ホームページよりダウンロードも可能です。(※要印刷)
URL: <http://www.kushiro-wetland.jp/wg/>
● 申込の募集は2005年度中の取組みを募集するものです。

釧路湿原自然再生事業に関する出前講座・パネル展示等をいたしませんか?

希望する 団体やイベントを募集中!!

- 皆さまの主催するイベントの時に…
- 研修の時に…
- 子どもたちにも分かりやすく!

イベントの内容・対象者等いろんな
状況に合わせて対応いたします。

釧路湿原自然再生普及行動計画とは

釧路湿原では現在、釧路湿原自然再生事業が行われています。
その事業の中で市民参加や情報発信を促すため「釧路湿原自然再生普及行動計画(案)」が作成されました。
多岐にわたる取組みを5年間で進めたいと考えている中、その中から毎年「具体的な取組み予定」を立てます。少
数の事業は「2005年度具体的な取組み予定」の主催者・協力を募集するものです。「具体的な取組み予定」は
市民のご参加、ご協力により作成されるものです。たくさんのご応募をお待ちしております。

応募からのながれ



● 出前講座・展示等をご希望の方は事務局までご連絡下さい。(期間に関わらず随時受け付けております)

募集に関するQ&A

- Q 応募するとどんなメリットがありますか?
A 皆さまの活動の活動紹介、PR、ネットワークづくりのお手伝い・コーディネート等をいたします。
- Q なにが情報や経験やノウハウはありますか?
A いいえ、特に情報や経験はありません。ただ、取組みのひとつとして団体や個人と取組みが公開され
ます。取組みの進捗についてお話を聞かせていただくことがありますのでご了承ください。
- Q 行動計画(案)の中に、私達の活動に参加するものがないのですが?
A 行動計画(案)には、いろいろな活動を盛り込んでつくられています。該当するものがなくても、活動開
始やそれにつながる取組みであれば一歩事務局にご相談下さい。
- Q 釧路湿原以外の場所での取組みでも大丈夫ですか?
A いいえ、釧路湿原保全につながる取組みであれば、場所はどこでも構いません。
- Q まだ行事予定が立っていないのですが?
A [2005年度具体的な取組み予定]には掲載されませんが、PRや広報は可能です。多くの皆さまの取
組みを公開したいとおもっていますので、応募期間が過ぎた後でも、取組み予定がありましたら事務局
までお知らせください。

応募・お問合せ先

釧路湿原自然再生普及
再生普及行動計画ワーキンググループ事務局
〒085-0839 釧路市幸町10-3 釧路地方自治庁庁舎4階
環境省東北北海道自然保護事務所 釧路
TEL.0154-31-4866 FAX.0154-32-7575
E-mail: e_hokkaido05@pop2.marimo.or.jp
URL: <http://www.kushiro-wetland.jp/wg/>

応募方法

- 応募方法 一紙印刷のご希望は、ホームページ
からダウンロードできます。
- 郵 一紙印刷した応募用紙を事務局へ郵送してPR
して下さい。



ホームページからも
応募できます。

応募用紙は、活動紹介の
活動紹介のPR活動に
活用させていただきます。